

～～第8648回～～

三方分山

～H31.3.24～

寒い朝でした。焼津を私有車2台で出て、標高約900mの道の駅朝霧高原に着いた時、外気温は-1℃でした。昨夜は雪だったらしく、道の駅の屋根も地面にも残雪があった。そこから見える標高1,964mの毛無山の頂上付近は雪で白かった。ここから目と鼻の距離の標高1,422mの三方分山には当然積雪はあると想像でき、アイゼンの準備を指示してなかったのを悔やんだ。「もし雪があって登れなければ、精進湖畔を一周歩いて、それで時間が余れば、温泉にでも入って帰ろうか。」などと代替案を考えた。精進湖畔に着くと、全く雪がない。ラッキー!! 予定通り準備運動をして出発した。昔は、精進湖から上九一色村を抜け甲府に抜ける生活道路だったという道を精進諏訪神社前の大杉を左に見ながら急坂を登った。女坂というから緩やかな道かと思ったら、別名「阿難坂」といって「大変難所な坂」の意があると説明書きがあった。尾根の女坂峠には石歌碑と3体の地蔵があり、木立の間から北側に甲武信ヶ岳、雲取山、八ヶ岳を、南側に富士山を眺めることができた。ここから三方分山までは、数か所崩落があり、迂回路が設定された痩せ尾根、続いてロープ場の急峻な登りとなる。頂上は広く、南側に切り開いた部分があり、精進湖と大室山を抱くような形の富士山を望むことができ、北側は北岳・間ノ岳・農鳥・聖岳や八ヶ岳・甲武信ヶ岳などが木々の間から見えた。山頂から精進峠を經由して精進湖畔までは、急坂の下りの連続で結構な体力と技術を要した。「山岳事故は下りで起こる」と言われているので、慎重に慎重に時間を掛けて歩いた。幸い好天に恵まれ、富士山と南アルプス、八ヶ岳方面の眺望を楽しむことができ、また残雪に遭遇することなく、無事下山した。花は、馬酔木の白い花を少し見ることが出来た。

参加者：10名（焼津）

天気：晴

地図：精進・市川大門

コースタイム：焼津 700＝精進湖畔 850-900…女坂峠 1015-20…三方分山 1145-1230…精進峠 1330…精進湖畔 1455＝焼津 1700

記録：焼津支部 伏見